

石川・長田・南遺跡

なが
た
みなみ

設定し、一四三七m²の調査を行なった。

所在地

石川県小松市長田町

1

所在地

一九九六年（平8）五月～一〇月

2

調査期間

小松市教育委員会

3

発掘機関

宮下幸夫

4

調査担当者

集落跡

5

遺跡の種類

鎌倉時代

6

遺跡の年代

鎌倉時代

7

遺跡及び木簡出土遺構の概要

長田南遺跡は、小松市街の北部に位置し、東に梯川の支流の八丁川があり、西にはJR北陸線が通っている。調査は地区体育館建設に先立ち行なわれ、工事計

画に従い四つの調査地区を

確認された遺構は、すべて鎌倉時代後期であり、一三世紀後半から一四世紀前半の年代である。遺構として、井戸六基、掘立柱建物五棟以上、溝多数、小型土坑九基などが発見された。木簡は一点で、西南の調査区内の板材を組み合わせた枠をもつ井戸の掘形の北壁に接して出土した。箸状木製品も出土していることより、井戸の祭祀に関わるものと考えられる。共伴遺物には、中世土師器などがある。その他、北側の調査区では、溝で区画された中に北東に井戸を伴う掘立柱建物があり、その井戸には曲物の枠が一段残っていた。この井戸跡の掘形の南壁中段には、柄が抜かれた柄杓（曲物）とこれの蓋として使用したと考えられる曲物の底板、木製品の柄がついた鉄製錐を中心に納めた掘り込みが見つかり、やはり井戸祭祀の一例と考えられる。

遺物として、包含層、溝、井戸から出土した舶載や国産の陶磁器、



(小 松)



S=1/4

砥石などがある。木器では、木簡のほかに井戸枠に用いられていた曲物や板材、曲物の杓・箸状木製品・漆椀などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「▽ (符籙) □□□□□□」
〔急々如律令カ〕
460×55×5
033

一部を欠損するだけで、ほぼ完形品である。符籙部分は冒頭に一八星または一八神の模様を描く。木簡の釈読は水野正好氏による。

(宮下幸夫)

石川・金石本町遺跡

所在地 石川県金沢市金石本町

調査期間 第九次調査 一九九六年(平8)五月

発掘機関 金沢市教育委員会

調査担当者 久保有希子

遺跡の種類 官衙跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期・古墳時代前期・飛鳥時代・奈良時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

金石本町遺跡は金沢市内を流れる犀川右岸の河口付近にあり、自

然湧水や水運に恵まれた場所に位置する。これまでに、

石川県立埋蔵文化財セン

ター・金沢市教育委員会に

よって、計八回発掘調査が

行なわれている。奈良・平

安時代を中心とした遺跡で、

三間×九間の大型掘立柱建

物や倉庫群、河道跡などが



(金沢)